

# コモンズ・グローバル30ファンド

追加型投信 / 海外 / 株式



## ウォルター・スコットからの手紙

### 【持続的成長とは】

持続的な成長を実現している企業と、いわゆる「グロース企業」として括られがちな企業は、区別して考えなければなりません。中にはビジネスモデルの特質ゆえに、成長が一過性にとどまる企業も存在するためです。

例えばビジネスモデルの持続性に乏しい企業、負債への依存度が高い企業、投資に回せるだけの十分なキャッシュフローを確保できていない企業、あるいは商品やサービスの差別化が不十分で競争優位性に欠ける企業などが挙げられます。こうした企業は一時的に脚光を浴びることもありますが、当社はあくまで一過性ではなく、長期にわたって持続的な成長を実現できる企業を常に探し求めています。

### 自律的な企業戦略を展開している企業を重視

景気拡大や金利環境の好転といった景気循環に伴う追い風を業績拡大につなげる企業も存在しますが、我々が特に重視するのは、自律的な企業戦略を展開し、幾度もの景気循環を乗り越えながら優れた成長が期待できる企業、かつ長期的なマクロ経済の変化にも左右されにくい企業です。

我々が成長に関して用いる「持続的 (sustainable)」という言葉は、ESG (環境・社会・ガバナンス) の観点を目指すものではありません。純粋に加速度 (複利) 的な成長サイクルを実現している企業、すなわち長期にわたって一貫して利益を拡大させる能力を有し、設備投資や研究開発 (R&D) を通じて事業に十分な再投資を行い、それを将来の利益拡大へと結びつけている企業を指しています。

### ファンダメンタルズ面で耐性を有する企業への投資こそが、リスクを軽減する最善の方法

ただし、これだけで十分とは言えません。我々は底堅い成長、それも守りに強く再現性の高い成長を実現できる企業を求めているからです。事業規模や財務レバレッジの効果で、利益水準がより変動しやすい企業との比較で見れば、当社のポートフォリオ企業が成長面で遅れをとる場面もないとは言えません。それでもなお、幾多の事業サイクルや景気サイクルを通じて確実に成長し、富 (価値) を複利的に増大させ得る企業に対して、粘り強く投資を継続する---この考え方こそが、当社の運用アプローチの根幹を成しています。

我々は、投資元本の毀損やボラティリティなどの観点から考えて、ファンダメンタルズ面で耐性を有する企業に投資することこそが、リスクを軽減する最善の方法である、と確信しており、この信念はこれまでと同様、今なお我々の運用プロセスの中核を成しています。

成長と耐性を兼ね備えた企業でポートフォリオを構築すれば、長期的に極めて優れたリスク調整後リターンを獲得できる、と考えています。安定的に成長できる能力は、困難な局面で安心材料として機能するだけでなく、将来の成長を支える強固な基盤としても役立ちます。

次号では具体的な例をご紹介しますと思います。

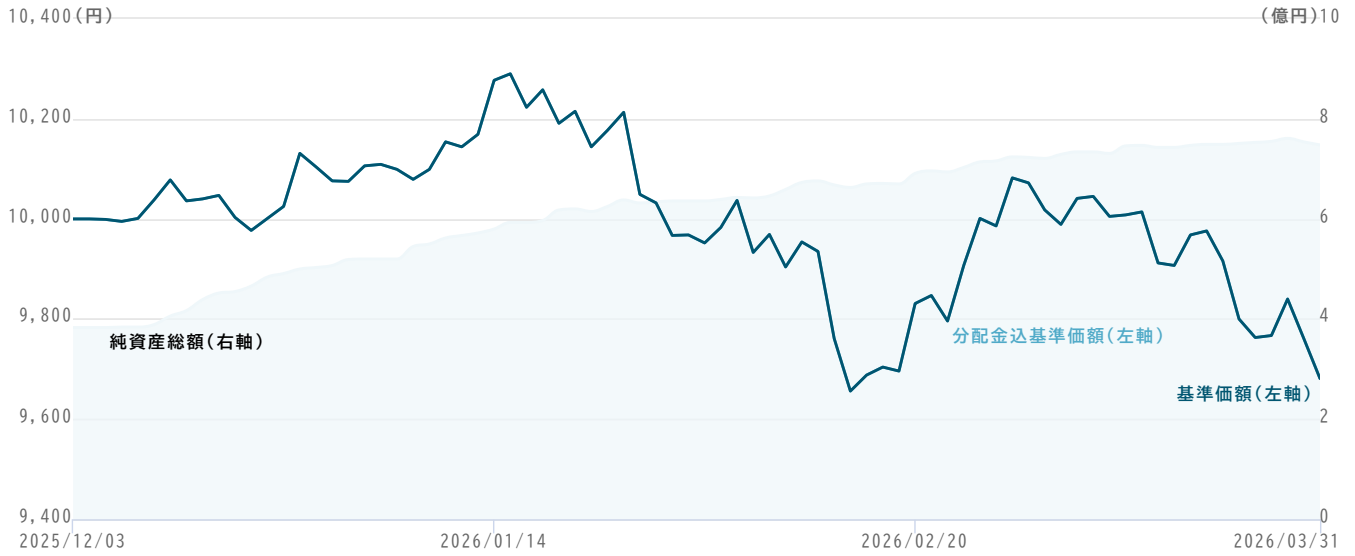


ウォルター・スコット  
インベストメント・ディレクター ロイ・レキー



## 基準価額の推移

2025年12月3日 ~ 2026年3月31日



※「分配金込基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※基準価額の計算において、運用管理費用（信託報酬）は控除しています。  
 ※当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、純資産総額に対して最大年率1.7281%程度（税抜1.571%程度）です。



## 運用実績

2025年12月3日 ~ 2026年3月31日

### 基準価額

9,681 円

(前月末比)

△320 円 (△3.20%)

### 純資産総額

7.4 億円

(前月末比)

+0.3億円 (4.76%)

### 騰落率(分配金込)

期間	騰落率
1ヵ月	△3.20%
3ヵ月	△4.23%
6ヵ月	-
1年	-
3年	-
5年	-
10年	-
設定来	△3.19%

### 分配金（1万口当たり、税引前）

決算期	分配金
設定来合計	0円

※「基準価額」およびその「前月末比」は分配後です。  
 ※「騰落率」は、基準日から過去に遡った期間です。税引前分配金を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※収益分配金は委託会社が決定します。分配を行わない場合もあります。



## ポートフォリオの構成比

### ■資産構成比

	比率 (%)
コモンズWS海外株式厳選ファンド	98.3%
コモンズ・マネーファンド	0.0%
金銭信託他	1.7%

※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。



## ポートフォリオの状況

実質的な投資を行うコモンズWS海外株式厳選マザーファンドの状況

### ■資産構成

	比率 (%)
外国株式	79.0
内 現物	79.0
内 先物	0.0
コールローン他	21.0

### ■国別比率

国	比率 (%)
アメリカ	57.0
シンガポール	3.9
香港	3.7
台湾	3.5
アイルランド	3.2
スイス	3.0
フランス	2.8
ケイマン諸島	2.0

### ■業種別比率

業種	比率 (%)
金融	17.0
テクノロジー	14.5
一般消費財	13.2
ヘルスケア	9.4
通信	8.4
生活必需品	5.8
工業	5.0
原材料	3.2
公益事業	2.9

※JAMPファンド・マネジメント株式会社のデータに基づきコモンズ投信作成。  
 ※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。



## 組入上位5銘柄

	銘柄名	国	業種	銘柄概要	比率 (%)
1	オーバーシー・チャイニーズ銀行	シンガポール	銀行	シンガポールを拠点とする東南アジア最大級の銀行。主に東南アジア、中国で、個人や企業に対して銀行業務や資産運用など多岐にわたる金融サービスを提供する。アジアの力強い経済成長と富裕層の増加が構造的な追い風となる。強固な資本基盤を背景に、成長市場でのプレゼンス拡大が期待される。	3.9
2	AIAグループ	香港	保険	香港を拠点とするアジア最大級の生命保険会社。アジア太平洋地域の18市場で、個人および法人向けに生命保険や医療保険などを提供する。地域における事業規模と販売網を強みに、アジアの所得向上や保障ニーズの高まりといった構造的な追い風を捉えた成長が期待される。	3.7
3	マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・テクノロジーサービス	世界最大級のテクノロジー企業。パソコン向けOS「Windows」やビジネス向けソフトウェア「Office」で圧倒的な地位を占める。クラウド関連サービスや生成AIをドライバーにしたさらなる成長が期待される。	3.6
4	TSMC	台湾	テクノロジー機器・半導体	半導体の製造を受託するファウンドリのリーディングカンパニー。半導体の製造をアウトソースする流れは構造的なものであり、同社は高い技術力や生産能力、大規模な設備投資に耐えられる財務力を兼ね備えていることから、世界の半導体需要拡大の恩恵を受ける主要プレイヤーであり続けると見込む。	3.5
5	アプライド・マテリアルズ	アメリカ	テクノロジー機器・半導体	世界最大級の半導体製造装置メーカー。半導体の製造工程で使われる装置やサービス、ソフトウェアなどを幅広く提供する。AIやIoTの普及に伴う半導体市場の拡大が追い風。広範な製品群と顧客との緊密な関係が高い参入障壁を形成している。	3.4
組入銘柄数					30銘柄

※JAMPファンド・マネジメント株式会社のデータに基づきコモンズ投信作成。  
 ※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。



## 当月のマーケット状況

3月の世界の株式市場は大きく下落しました。中東での軍事衝突と供給寸断によるスタグフレーション懸念、金利上昇と信用収縮への警戒感が相場の重石となりました。資源国が底堅さを維持する一方で製造国は軟調となり、特に中東依存度が高いアジアは下落が目立ちました。セクター別では、エネルギーを除くセクターが下落し、ほぼ全面安となりました。

上旬は大きく下落しました。2月末日に米国とイスラエルがイランに軍事攻撃を開始し最高指導者ハメネイ師を殺害、イランが湾岸諸国を巻き込む報復攻撃とホルムズ海峡封鎖で応じると、原油急騰と供給制約によりインフレと景気後退が同時進行するスタグフレーションへの警戒感が高まりました。市場予想を大きく下回った2月の米雇用統計も、これに拍車をかけました。物価高対策や防衛費増に伴う財政拡張も意識され、主要国で長期金利が上昇しました。

中旬も軟調に推移しました。ハメネイ師後継の反米強硬派モジタバ師が海峡封鎖継続を表明、軍事的緊張も続き、IEA（国際エネルギー機関）の石油備蓄放出発表後も原油価格は上昇を続けました。3月FOMC（米連邦公開市場委員会）では、参加者のインフレ見通し上方修正とタカ派的姿勢により利下げ期待が剥落し金利が上昇しました。

下旬も中東情勢に揺れる展開となりました。一時は停戦期待が広がりましたが、イラン側はホルムズ海峡の主権要求を含む停戦条件を突きつけて航行妨害を継続、その後もトランプ大統領による重要インフラ破壊警告、イエメンの親イラン勢力フーシ派の参戦表明などで緊張が続きました。月末には、インフレ懸念を和らげたパウエルFRB（連邦準備制度理事会）議長発言や戦争終結意思を示唆したイラン大統領発言が支えとなって四半期末の調整買いが入りましたが、勢いは限定的でした。

月間を通して、SaaS企業へのAIディスラプションや金利上昇に伴う企業の資金繰り悪化への懸念を背景にプライベートクレジット市場で信用不安が高まり、相場の重石となりました。

エネルギー輸入依存度が高い欧州やアジアの製造国も交易条件悪化が懸念されて下落しました。欧州は中銀のタカ派姿勢と早期利上げ観測が相場を下押ししました。半導体セクターを主力とする韓国と台湾は2月までの急騰の反動で大きく下落しました。エヌビディアの巨額受注残発表などで旺盛な半導体需要継続が確認されたものの、部材調達不安や新技術によるメモリ需要減懸念が逆風となりました。インドや多くの東南アジア諸国も原燃料不足と操業制限が懸念されて下落しました。

中国・香港は、全人代で成長率目標が引き下げられ、原油輸入コスト上昇への警戒や主力IT企業の収益悪化懸念により軟調に推移しましたが、中銀の緩和的スタンスや景気浮揚策への期待が相場を下支えしました。金融セクターが主力のシンガポールは、悪影響が相対的に限定的とみなされ底堅く推移しました。その他の地域では、産油国のノルウェー、コロンビアが堅調で、特にGDPが3年ぶりにプラス成長に転じたアルゼンチンの上昇が目立ちました。

為替市場では、米国のエネルギー自給率の高さを背景に、安全資産として「有事のドル買い」が集中しドル全面高となりました。ドル円相場は、中東原油依存度の高い日本の貿易赤字拡大が意識され円安が進みましたが、介入警戒感もあって高値圏での神経質な展開となりました。ユーロは対ドルで下落、スイスフランも中銀によるフラン高けん制により対ドルで下落しました。ゴールドは金利上昇とドル高が逆風となって下落しました。

ポートフォリオマネジャー 金子 敬行



## 運用状況

当ファンドは、月間で▲3.20%の下落、投資先30銘柄中8銘柄が値上がり、22銘柄が値下がりとなりました。なお、上昇率10%以上はなく、下落率10%以上は11銘柄となっています。組入上位5銘柄の月間騰落率では、オーバーシー・チャイニーズ銀行（+1.36%）などがパフォーマンスをけん引した一方、TSMC（▲16.01%）は下落しました。



## 新規組入投資先

当月はありません。



## 今後の運用方針

当ファンドは、短期的テーマを追いかける運用スタイルとは一線を画し、長期的なリターンの創出を目指しています。株価は短期的には大きく変動することがありますが、市場は時間の経過とともに、堅固なファンダメンタルズと持続可能な収益構造や競争優位性を有する企業を正当に評価していくものと考えています。引き続き、長期的な価値創出を重視し、規律ある姿勢で運用に取り組んでいきます。

ポートフォリオマネジャー 金子 敬行



## お知らせ

### Pick Up! セミナー

最新のセミナー情報は commons 投信ウェブサイトの「[セミナー情報](#)」をご覧ください。

<https://www.common30.jp/seminar/>



□ コモンズ投信17周年イベント「COMMONS MEETS 2026」  
～長期投資思考と、未来をつくる意思決定～

6月14日(日) 13:00～16:30 (受付開始時間12:30)

### □ 運用報告会

【名古屋開催】コモンズ投信運用報告会

4月18日(土) 13:30～15:15 (受付開始時間 13:15)

【オンライン】コモンズ投信運用報告会

4月21日(火) 20:00～21:00 (受付開始時間 20:00)

【福岡開催】コモンズ投信運用報告会

5月23日(土) 11:00～12:45 (受付開始時間 10:45)



### □ こどもNISA

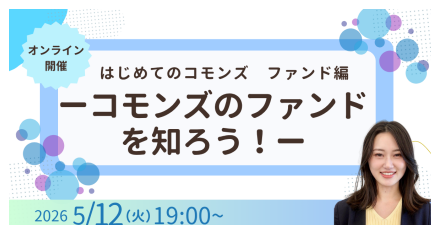
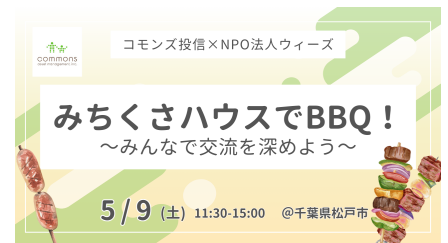
【オンライン】2027年NISA制度はどう変わる?

4月28日(火) 19:30～20:00 (受付開始時間 19:30)

### □ SEEDCap企画

コモンズ投信×NPO法人ウィーズ みちくさハウスでBBQ!  
～みんなで交流を深めよう～

5月9日(土) 11:30～15:00 (受付開始時間 11:20)



### □ はじめてのコモンズ

【オンライン】ファンド編ーコモンズのファンドを知ろう!ー

5月12日(火) 19:00～19:40 (受付開始時間19:00)

☆アーカイブ動画を[YouTube「COMMONSTV」](#)にて配信しております。  
ぜひ、チャンネル登録をお願いいたします! ☆



## 販売会社一覧

販売会社名称	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	一般社団法人 日本STO協会
	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号					
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第44号	○	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (登金) 第164号	○		○		
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第633号	○				
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第10号	○		○		

当ファンドは、NISA制度における「成長投資枠」の対象商品ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、各販売会社にお問い合わせください



## コモンズ・グローバル30ファンドのリスクについて

### 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。当ファンドは値動きのある有価証券に投資するため、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により元本を割り込み、損失を被ることがあります。ファンドの運用から生じる損益は、すべて受益者に帰属します。お客さま（受益者）には、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえ、ご投資の判断をしていただくよう、よろしくお願い申し上げます。なお、下記のリスクはすべてのリスクを網羅しているわけではありませんので、ご注意ください。

### 基準価額の変動要因となる主なリスク

株価変動リスク	当ファンドは実質的に海外の株式を組入れるため、株価変動の影響を大きく受けます。株価は、個別の企業の業績や経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。特に、新興国市場の株式は、先進国市場に比べて価格変動が大きくなる傾向があります。
流動性リスク	ファンドが有価証券を売却または取得する際、市場に十分な流動性がない場合、市場実勢価格から乖離した価格での取引を余儀なくされ、ファンドの基準価額に悪影響を及ぼす可能性があります。一般的に、新興国市場は先進国市場と比較して流動性リスクが高くなる傾向があります。
信用リスク	有価証券の発行者の経営・財務状況の悪化、またはそれらが予想される場合、当該有価証券の価値が下落または消失し、ファンドの基準価額に悪影響を及ぼす可能性があります。
為替変動リスクおよびカントリーリスク	外貨建資産への投資においては、投資対象国・地域の政治・経済情勢等の変化、対円為替レートの変動等の影響により外貨建資産の価値が変動し、ファンドの基準価額に悪影響を及ぼす可能性があります。特に新興国は、先進国と比較して変動性が高くなる傾向があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。



### その他の留意点

- 当ファンドの投資対象ファンドは、実質的な運用をマザーファンドで行うファミリーファンド方式を採用しています。他の投資信託によるマザーファンドへの追加設定・解約等が短期間に集中した場合、マザーファンドに組入れている有価証券の売買により、ファンドの基準価額に悪影響を及ぼす可能性があります。
- 大量解約に伴い組入資産を短期間で大量に売却する必要が生じた場合、当該売却注文が市場価格に影響を与え、ファンドの基準価額に悪影響を及ぼす可能性があります。また、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢価格を反映した取引ができない場合や十分な取引量が確保できない場合は、解約申込の受付中止、受付済の解約申込の取消し、解約代金の支払い遅延といった事象が発生する可能性があります。
- マザーファンドは厳選した銘柄に集中投資を行うため、個々の銘柄の価格変動がポートフォリオ全体に大きな影響を与え、これに伴い各種リスク水準が高まる傾向があります。
- 収益分配金は、預貯金の利息と異なり、必ずしも計算期間の運用収益を示すものではありません。分配金は信託財産から支払われるため、純資産総額が減少し、基準価額の下落要因となります。運用収益を超える分配が行われた場合は、その一部または全部が実質的に元本の一部払戻しとなる場合があります。
- 当ファンドのお取引は、金融商品取引法第37条の6に定めるクーリング・オフの対象外となります。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり、預金保険、貯金保険および保険契約者保護の対象ではありません。販売会社が証券会社ではない場合、投資者保護基金の支払い対象となりません。



## コモンズ・グローバル30ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	(コモンズ投信の場合) ありません。 (コモンズ投信が指定した販売会社の場合) 販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。購入申込手数料は、商品の説明、販売の事務等の対価として販売会社が受け取るものです。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

### 投資者が投資信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	当ファンドの信託報酬率は、ファンドの純資産総額の一定の増加により逡減する仕組みとなっており、当レポート作成基準日現在、純資産総額に対して最大年率1.7281%程度(税抜 1.571%程度)です。
その他の費用・手数料	当ファンドに組入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料、信託事務に要する諸費用およびこれに係る消費税等相当額などの実費が信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用等として、純資産総額に対して年率0.11%(消費税込)を上限として投資信託財産より控除されます。上記の費用、手数料等の合計額については、運用状況、保有期間等に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。



## お申込みメモ

その他	商品分類	追加型投信/海外/株式
	信託設定日	2025年12月3日
	信託期間	無期限（ただし、ファンドの残存口数が10億口を下回った場合等には、信託期間の途中で信託を終了させることがあります。）
	分配方針等	毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。
購入時	購入単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
	購入価額	購入申込受付日の翌々営業日の基準価額
換金時	換金単位	販売会社によって異なります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
	換金価額	換金申込受付日の翌々営業日の基準価額
購入・換金に関して	購入・換金申込不可日	申込日当日が次のいずれかの場合は、購入・換金のお申込みを受け付けられないものとします。 1. ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、ロンドン証券取引所またはロンドンの銀行の休業日およびその前営業日 2. 上記1のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日
	申込締切時間	原則として、購入・換金の申込みに係る、販売会社所定の事務手続きが午後3時30分までに完了したものを当日の申込受付分とします。なお、販売会社によっては対応が異なる場合がありますので、詳細は販売会社にご確認ください。
	換金代金の支払い開始日	換金申込日から起算して6営業日



## ご注意事項

- ◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ◆ファンドの組入銘柄の参考情報を提供することを目的としており、特定銘柄の売買などの推奨、また価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。
- ◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合があります。
- ◆投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。



## 関係法人

委託会社

コモンズ投信株式会社

- ・金融商品取引業者
- ・関東財務局長（金商）第2061号
- ・加入協会 一般社団法人 資産運用業協会

お問い合わせ先

■コールセンター（受付時間／平日 午前10時～午後4時）

03-5860-5706

■ウェブサイト

<https://www.common30.jp/>